

## 1 第1回吹田市地域医療推進懇談会にて

平成28年2月25日、第1回吹田市地域医療推進懇談会を開催し、以下の主な点について情報共有し、各団体の現状等について意見交換を行いました。

- 本市の人口推計では、2000年以降、生産年齢人口（15～64歳）は減少し始め、2025年には、老年人口（65歳以上）が25%以上を占めると予測されている。中でも、75歳以上人口は、2010年から2025年の15年間で、約1.9倍に増加することが見込まれる。
- 本市における死亡場所は、病院が約8割を占め、自宅での死亡は2割弱で横ばいの状況である。
- 医療現場の現状として、吹田市医師会実施のアンケートにおいて、多くの医師が新たな在宅患者の受入が困難であると答えている。
- かかりつけ医がいない人は約2割存在し、またいると答えた方7割の人の中にも大病院指向の人が一定数存在すると思われる。
- 平成28年3月に策定された大阪府地域医療構想では、将来本市においても、在宅医療等の医療需要が大幅に増大することが示された。

【大阪府地域医療構想における吹田市の在宅医療等の医療需要について】

在宅医療等		(再掲) うち訪問診療分	
平成25年(2013年)	平成37年(2025年)	平成25年(2013年)	平成37年(2025年)
3,599	6,141	2,693	4,459

(人/日)

※大阪府地域医療構想（大阪府保健医療計画別冊）（表19）平成37年（2025年）市町村別医療需要（在宅医療等）をもとに吹田市で編集

## 2 在宅医療等に関する現状把握について

それらを踏まえ、今後増大する在宅医療等の医療需要に見合う供給体制の整備について、その対策の方向性等を議論するにあたり、まずは、本市の在宅医療に関する現状を把握する必要があります。

そこで、以下の項目から本市の在宅医療等に関する現状把握を行い、そこから見える課題を抽出し、今後の論点の整理をしたいと思います。

- ①在宅医療に関する医療資源等の状況
- ②吹田市医師会実施の在宅医療に関するアンケート結果
- ③在宅医療を実施されている医師からの報告
- ④訪問看護の実態調査の実施（※今年度第2回目の懇談会にて結果提示予定）
- ⑤医療に関する市民アンケート調査の実施（※4回目の懇談会にて結果提示予定）